

農業はみんなが幸せになれる仕事、 障害者雇用も「案ずるより産むが易し」

京丸園 園主 鈴木厚志(静岡県)

活動の背景と目的

京丸園は、葉物野菜を周年栽培している農家です。以前は、規模も小さく家族で仕事をやりくりしていましたが、施設の規模拡大に応じ雇用の経営に変わっていきました。

きつい・汚い・かっこ悪いというイメージの農業にパート申込みは、決まって高齢者が障害者でした。当時私は、障害者というだけで彼らの可能性よりも不安だけが先行し「不採用」の返事を出し続けていたのです。

返事を聞いた親御さんは、がっくり肩を落とし、子供の手を引き帰っていかれます。帰り際の一言は大抵「農業だったら、息子にも何かできたかもしれないのに・・・」。

「農業だったら・・・」。この言葉が心の中に残り、もしかしたらこれも農業という産業の使命なのではと考えるようになりました。

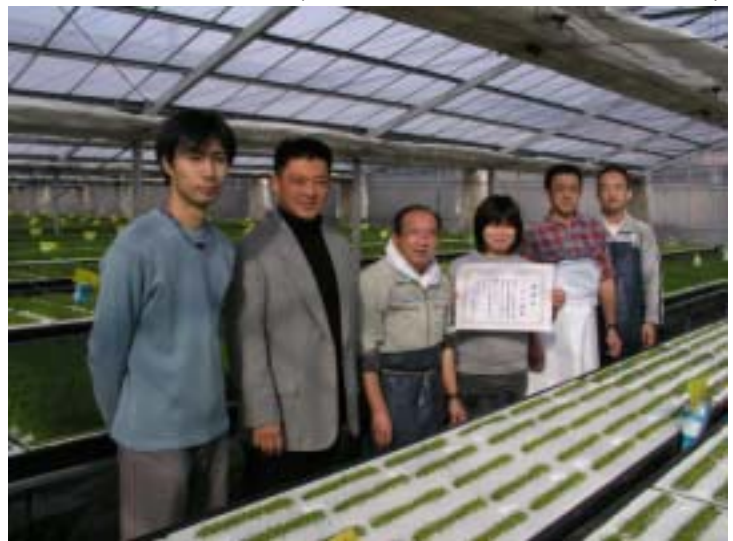
ちょうど園芸療法という言葉も耳にするようになり、農業を仕事にすれば障害の機能回復にも繋がるかもしれない、給料を受け取りながら治療にも繋がる。これが私の「農業と福祉」、「園芸福祉」のスタートでした。

農業情勢も他産業と同じく国際競争の中に巻き込まれながら後継者不足、遊休農地の増加などで「先が見えない」という農業者の声も出てきています。

しかし、農業の多面的機能の中には、これからの日本の中で私達の暮らしのために果たせる役割が多く潜んでいるように思うのです。そのひとつが園芸福祉です。

(授産所からの受け入れに対し表彰)

障害者・高齢者などの弱者を対象とするのが福祉と思っていた私ですが、園芸福祉を学ぶ中で福祉とは「それぞれの人のそれぞれの幸せ」と言う幅の広さと、企業活動の根底にあるべき姿であることにも気付くことができました。農業・園芸と福祉が良い関係であることで、それぞれの人の幸せを応援できる産業に成長することを願っています。



活動の内容

京丸園事業内容

業種	農業(施設野菜:水耕栽培)
従業員	37名(家族5名、社員5名、パート24名内障害者4名、通り八研修3名) (年齢88歳~15歳老若男女、平均年齢45歳)
生産面積	温室55a 田70a
生産方法	ダム式水耕プラントによる水耕栽培・アイガモ農法による無農薬米
生産物	水耕みつば・姫みつば・姫ねぎ・姫ちんげん・とまと・米、等
販売先	J A とびあ浜松から全国30市場へ
売上	15,000万円

運営や体制

(運 営)

京丸園 経営理念 『笑顔創造』

"心身の健康"の証は、心からの笑顔です。

- ・私達の育てる農産物で、お客様や農園で働く仲間や、関わるみなさんの心身の健康を応援でき、良い笑顔を創れる農園でありたいと日々努力します。

『笑顔がいいね!』と言われる私達でありたい。

『笑顔がいいね!』と言える私達であるように。

私達の知恵と手足は、心身の健康を創造します。

(体 制)

- ・水耕部【毎日、緑を食卓に!】を基本姿勢。1973
- ・土耕部【孫に食べさせたくて!】を基本姿勢。アイガモ農法による無農薬米。
- ・心耕部【コンストラクティブリビング】を基本姿勢。森田療法・内観療法プログラム。



(こんな仲間働いています)

地域との関わり

・ 浜名湖アグリフォーラム【1996年~】

「農に関わるすべての人が共に集い明るい未来の農業について語り合う場」として、静岡県西部地域の農業者が8年前に立ち上げたフォーラムです。来年2月に行われる第9回の実行委員会も立ち上がっています。参加者は、農業者、JA、行政、学生、一般と幅広く毎年300人程度の参加者が未来の農業について話し合います。

この第2回フォーラムに園芸の新しい可能性「園芸療法」について近藤まなみ氏をお招きしたのが始まりで第6~8回は、農業と福祉の良い関係「障害者の園芸就業」の分科会が持たれ討論されてきました。現場では、農園と生活支援センターとの協力で障害者の就業者数が増えている。また、就業から雇用に発展していくケースも見られるようになってきています。

・ JA静岡青壮年連盟 (JAとびあ浜松南支部)「ひまわりロード運動」【1998年~】

JA青年部は、部員の減少で活力が低下していた時、地域を走る国道1号線の中央分離帯にひまわりを咲かせることで部の活性化を図ろうと決断したのは5年前。

当時の建設省に許可をいただき、手では掘れないコンクリートの残骸地を部員のユンボを持ち込んでひまわりを咲かせました。2年目には国土交通省「ボランティアサポートプログラム」の事業と結びつき浜松市と「A」、地元住民を巻き込んでの活動となってきました。

現在、種を浜松市、花苗を「A」青年部が作り国道中央分離帯の植え込みゴミ拾いなどを住民とひまわりを中心に多くの人に関わっています。

・しずおかユニバーサル園芸ネットワーク【2003年～】

「園芸活動を通じて福祉の向上をめざす会」として静岡県下に150名の会員と共に活動中。参加者は農業・教育・医療・福祉・環境の分野から幅広く集まり行政とのパイプも太くなってきています

。昨年、イギリス・オランダに海外調査、初級園芸福祉士講座の開催、各地域でのシンポジウムの開催と活動してきました。今年9月の園芸福祉全国大会は静岡県浜松市で行われる。ネットワークは大会に協力し、各分科会などで県下の活動も紹介していく計画です。皆様のお越しを楽しみにお待ちしております。

これまで苦労した点、今後の課題や計画

現在、農園では7名の障害者が毎日元気に働いてくれています。

知的2名、身体1名、精神4名と障害の程度もさまざまですが、それぞれ農園での役割を持ち今ではなくてはならない存在になっています。視察などお越しになる皆さんから「なぜ福祉施設でもないのに障害者と一緒に？」と質問があります。

(作業風景)

私は一言「彼らと一緒にでも儲かるからですよ！」と答えています。が、私の思いや抽象的なことを言ってもなかなか理解されなかったり、障害者雇用は特別で大変なことと誤解されたり、「興味はあるけど私には無理」と自信を無くす人などさまざまに私の思いはなかなか伝わりませんでした。



しかし取り組む過程で、みなさんに、より興味をもっていただけ、「自分でも何かやってみよう」と意欲的に関わってもらえるようになったのは確かです。

中には「必ず儲かりますか？」という人もいますが、その答えは「NO!」です。もう一言付け加えておくと「障害者と一緒に仕事をすると必ず損をするか？」の質問にも私ははっきり「NO!」と答えます。

彼らと一緒に仕事をして7年、一年に1人ずつでしたがかわりが広がってきました。農園の経営もこの7年増収増益の成績を収めています。この事実は、障害者雇用が経営にとって少なくともマイナスではない証明になるのではないでしょか。

私が当初持っていた、障害者、障害者雇用への不安は私の無理解からくる漠然としたマイナスイメージからでした。

今、体験の中から言えることは「案ずるより産むが易し」、「人」と「自然」の可能性は限りなく大きく優しいと感じています。

連絡先

〒435-0022

静岡県浜松市鶴見町380-1

京丸園

電話053-425-4786

FAX053-425-5033

<http://www.kyomaru.net>

